

非線形システム概論 2005

高次元の差分方程式

池口 徹

埼玉大学 大学院 理工学研究科 情報数理科学専攻

338-8570 さいたま市 桜区 下大久保 255

Tel : 048-858-3577, Fax : 048-858-3716

Email : tohru@ics.saitama-u.ac.jp

URL : <http://www.nls.ics.saitama-u.ac.jp/~tohru>

1次元の差分方程式

□ ロジスティック写像

$$x(t + 1) = Rx(t)(1 - x(t))$$

注 これまでは, $x_{t+1} = Rx_t(1 - x_t)$ のように, (離散) 時間 t を下付き添字として表わしていたが, 今日からは, (t) のように, 括弧を用いて表現する.

□ 様々な応答

- 固定点
- 周期点
- カオス

□ 分岐

高次元の差分方程式とは？

□ 表現 1

– t : _____

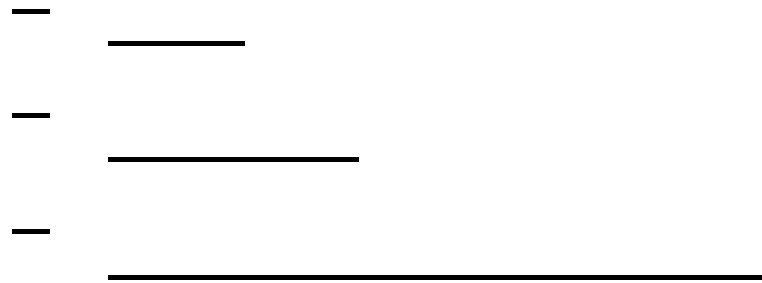
– $x(t)$; _____

– $f(t)$: _____

□ 表現 2

2次元の差分方程式とは？

□ 表現 1



□ 表現 2

□ 表現 3

なぜ2次元の差分方程式？

- より次元の高い差分方程式の難形になっている
- 1次元差分方程式では観測されないものがある
 - _____
 - _____
- 3次元微分方程式の解の性質を，解析するためのツールになる．
- 実際のシステムの _____ として，2次元の差分方程式を考えた方がよいときがある．
- _____ を含めた多様な解をもつ．

2次元の線形な差分方程式の例

□ 表現 1

– t : _____

– $x(t)$; _____

– A : _____

□ 表現 2

□ 表現 3

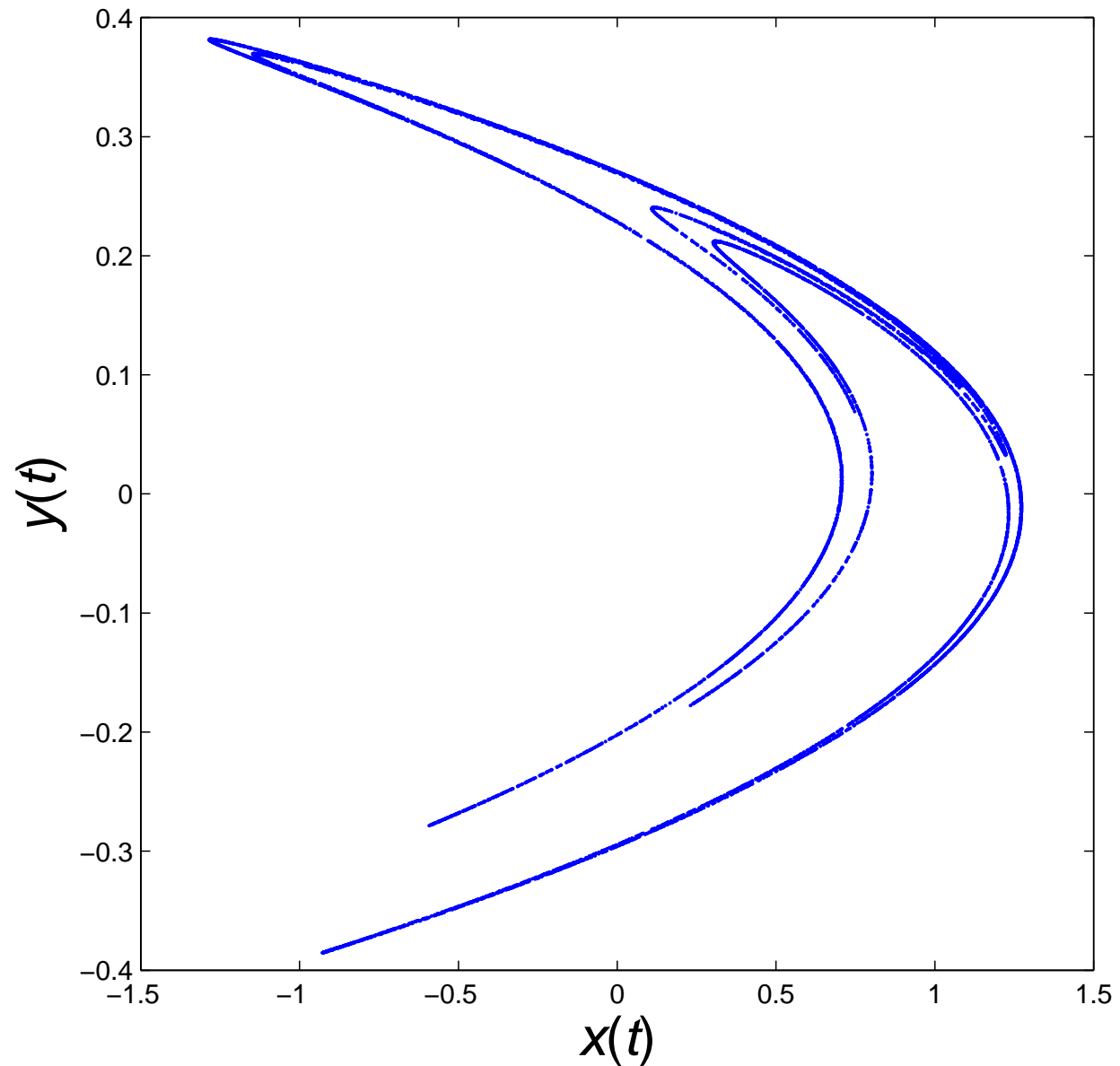
2次元の非線形な差分方程式の例

□ エノン写像

cf ロジスティック写像

□ 池田写像 (池田研介, 1972)

エノン写像

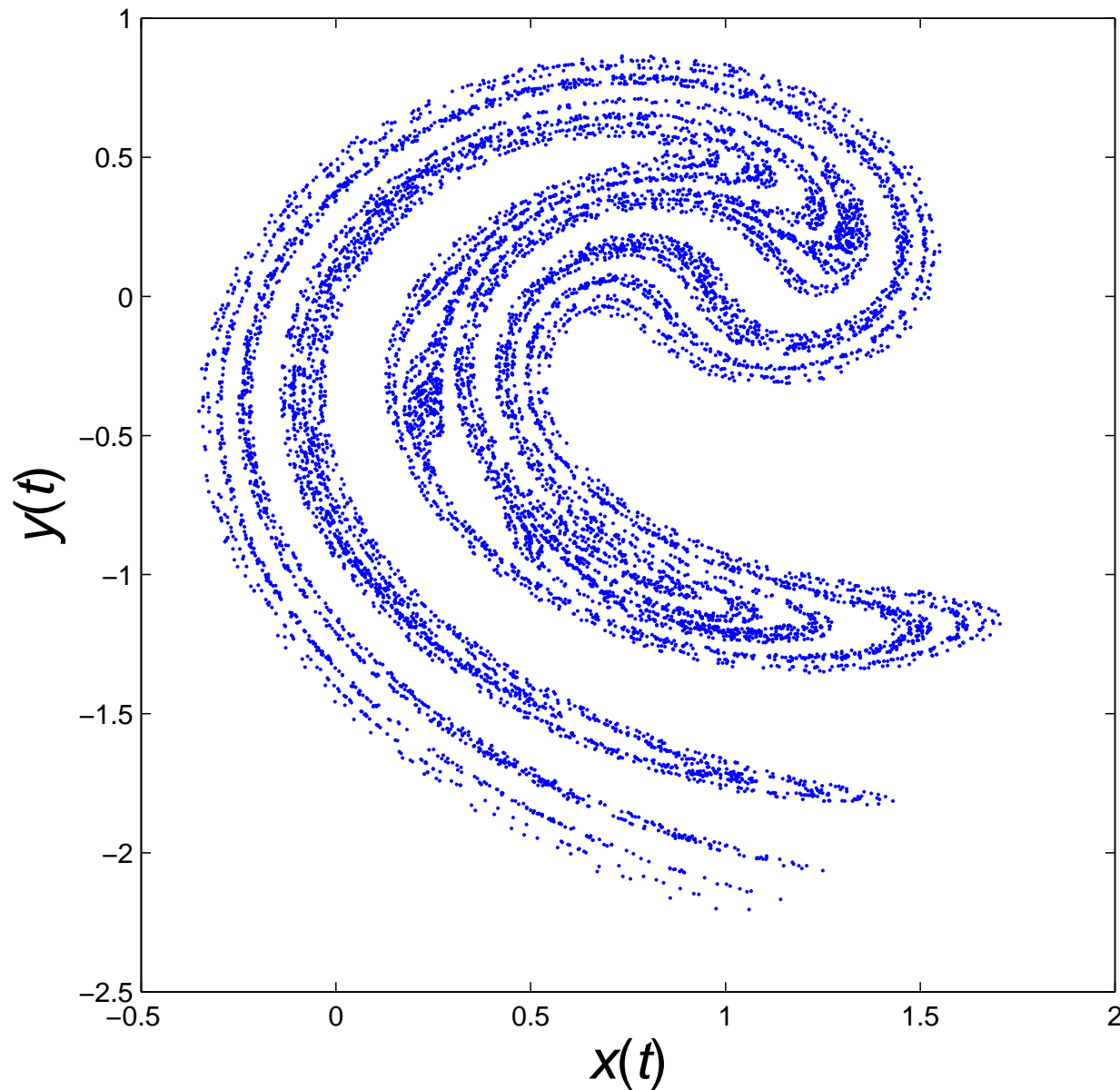


$$a = 1.4, b = 0.3$$

10000 点

初期値より 1000 点を
過渡状態として無視

池田写像



$$q = 1.0, b = 0.9,$$

$$\kappa = 0.4, a = 6$$

10000 点

初期値より 1000 点を
過渡状態として無視

2次元写像の応答を調べるには

□ 1次元写像と同様に，

—
—

の _____ , _____ を調べる必要がある．

□ 2次元写像

$$\begin{cases} x(t+1) = f(x(t), y(t)) \\ y(t+1) = g(x(t), y(t)) \end{cases}$$

の固定点を $\begin{pmatrix} x^* \\ y^* \end{pmatrix}$ とすると，

演習

□ エノン写像の固定点を求めなさい。

$$\begin{cases} x(t+1) = 1 - ax(t)^2 + y(t) \\ y(t+1) = bx(t) \end{cases}$$

固定点の安定性，不安定性

□ 一変数の差分方程式

$$x(t + 1) = f(x(t))$$

の場合は， $|f'(x^*)|$ が 1 よりも大きいかどうかを考えた．

□ x^* を $x^* + \epsilon$ に変化させたときに， ϵ を加えた効果が f により，

— _____
— _____

□ つまり，

を考えて，

が 1 よりも大きいかどうかを議論すればよいということ．

固定点の安定性，不安定性

□ 右辺をテーラ展開すると，

$$x^* + \epsilon' = f(x^* + \epsilon)$$

□ 整理すると

□ $\epsilon \ll 1$ なので，

2変数の場合は？

□ 二変数の差分方程式

$$\begin{cases} x(t+1) = f(x(t), y(t)) \\ y(t+1) = g(x(t), y(t)) \end{cases}$$

に対して、 $(x^*, y^*)^T$ を $(x^* + \epsilon_x, y^* + \epsilon_y)^T$ に変化させたときに、_____ が

- 大きくなってしまふのか (_____),
- 小さくなるのか (_____)

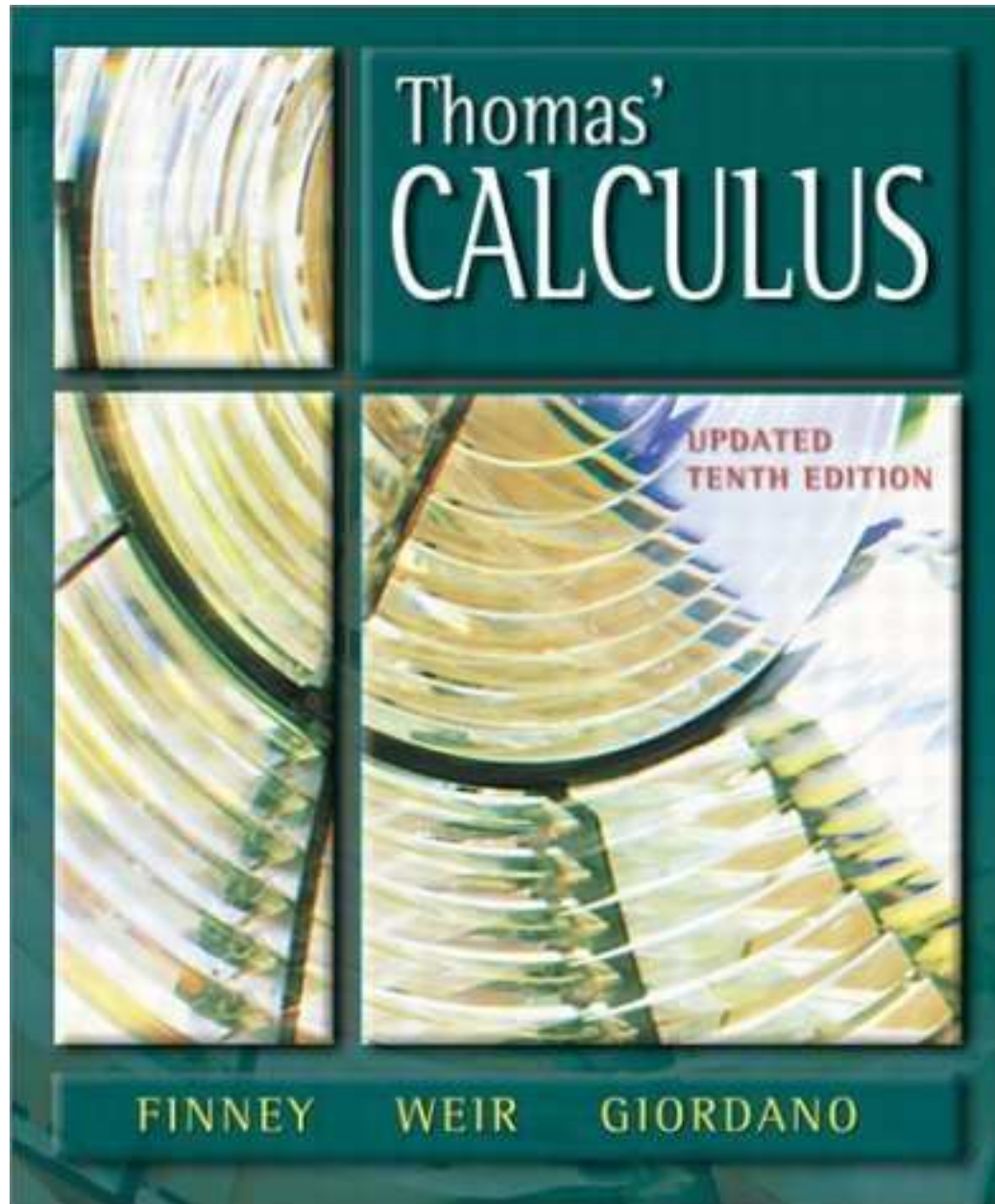
を考えれば良い。

□ そのためには、_____ を用いる。

□ どこで習ったか？

- _____
- _____

参考書籍紹介



Ross L. Finney, Maurice D. Weir, and Frank R. Giordano, "Thomas's Calculus,"
10 th Edition, Addison Wesley, 2001.

2変数関数のテータ展開

□ 第一式

$$x^* + \epsilon'_x = f(x^* + \epsilon_x, y^* + \epsilon_y)$$

□ 第二式

$$y^* + \epsilon'_y = g(x^* + \epsilon_x, y^* + \epsilon_y)$$

線形写像による近似

□ $\epsilon_x \ll 1, \epsilon_y \ll 1$ だから,

□ これは, _____ 写像

□ 「線形な行列による写像により, (ϵ_x, ϵ_y) は, どのような変化を示すか」を考えれば良い.

⇒ どこで習ったか?

—

参考書籍紹介



平岡 和幸，堀 玄，
“プログラミングのための線
形代数，
オーム社，2004年。

演習

□ エノン写像

$$\begin{cases} x(t+1) &= 1 - ax(t)^2 + y(t) \\ y(t+1) &= bx(t) \end{cases}$$

のヤコビ行列を求めなさい。

演習

□ 池田写像

$$\begin{cases} x(t+1) = q + b(x(t) \cos \theta(t) - y(t) \sin \theta(t)) \\ y(t+1) = b(x(t) \sin \theta(t) + y(t) \cos \theta(t)) \\ \theta(t) = \kappa - \frac{a}{1 + x^2(t) + y^2(t)} \end{cases}$$

のヤコビ行列を求めなさい。